向陽新聞
高知市塩屋崎町1-1-10
土佐中・高校新聞部
編集兼発行人　久保寛雄
印刷　高知印刷

写真
TEL ㉖6758
大丸東入口前
高橋

体育館 全貌を現わす

好評博す体育館
多い不満の声
食堂

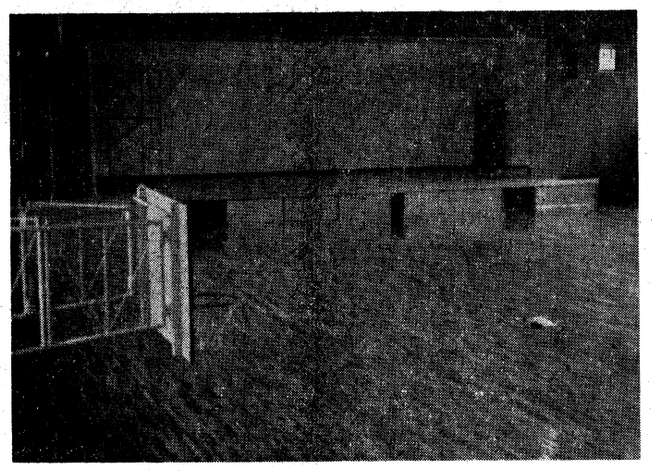
○　去年七月に着工されて以来約九ケ月、第三期工事が終了し、新体育館が威容を現わした。ほぼ設計図通りに作られ、○円装を一部残して新学期から使用されている。

○　この体育館で、第一期の高校塔中央塔、第二期の中学塔と並び、三年越しでプールを残し、一応新校舎は完成した。○工費は第一期が三億五千万円、第二期一億五千万円、第三期一億五千万円で総額七億五千万円である。○第三期工事で造られる予定になっていたプールは、新たに第四期工事で行なわれることになっているが場所などについてはまだ未定である。○

新体育館の内部は二階建、中三階にはおよそ四百人収容できる食堂及び剣道部、柔道部の格技室や二十の部室がある。二階には、体育館兼講堂・体育科職員室及び女子更衣室が設置されている。また、講堂専用の放送・録音・楽器・椅子なども備えられ、行事ごとに椅子を運ぶ苦労が省かれた。ステージの反対側の三階には、卓球場が作られている。校舎から体育館への渡り廊下は、中央塔・中学塔二階からそれぞれ取り付けられている。新体育館は以前に比べ採光・設備など全般にわたって改善され、面積は以前の約二倍、バスケットコート二面もとれるほどの広さである。ステージもかなり広く、文化祭・種々の行事に広く活用できるようになっている。

また食堂も以前より広く衛生的になって「県下で最も設備のいい食堂」（食堂の人の話）と言われるほどである。しかし、受け膳台での混雑はあいかわらず解消されておらず、割ごみが横行している。また、下げ膳台でも混雑をするなど設計面でも不備な点がめだちはじめている。

そのほか、欠点と思われるものに部室と女子更衣室がある。前者は数が多いためか、かなり狭くコンクリートで仕切っただけでは部のプライバシーが保てないのではないかと思われる。後者は間は広くとられたが、ロッカーがはいり切って生徒意見の調整を行なっている。現在記念祭の名前を付ける作業にとりかかっている。


特殊製作になる内部

プールは当分おあずけ

旧体育館と旧新館は、夏休み中に完全にこわされることになっており、これで古い校舎は、すべて姿を消すことになる。また、旧グラ北東側の民家を旧グラ拡張のため買い取るという予定もあるが、まったくの白紙の状態である。

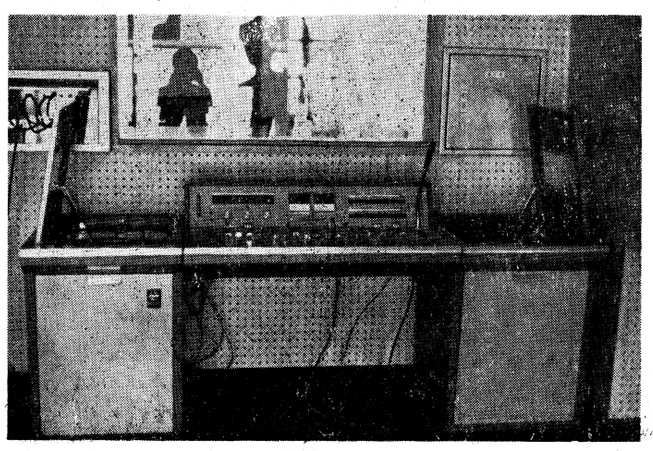
第四期工事では、第三期工事でつくられることになっていたプールがつくられる。しかし、場所・工期・建築資金額などについては未定である。校長先生のお話によると、「造るつもりではあるが、まだ何も決まっていないので、約束できない。もし造るとすれば、旧プールと同規模程度になるだろう」場所は、学校敷地内では無理のようだ。建築資金もかなりの額になりそうである。また、第四期工事終了までの水泳の授業については、「やるとすれば、市営プールでするしかないが、時間的に問題があり、最悪の場合には、全くできないことになるかもしれない」（西田先生談）

逆に使用面積は狭くなったという女子が多い。

今後の問題としてはまず設備に関して生徒からでてきた不満に対してどう答えるか。そのほか、体育館での上履・体育用具の管理などがある。最初の問題については「なるべく生徒の希望どうりにするつもりだ」とのことである。次に、第二・三の問題に関しては、「まず上履については、体育館はビニール塗装をしたため、みんなに備えてもらったが、完全に徹底するよう努力するつもりだ。次に体育用具の管理については、倉庫が上下二ケ所に分かれたため、かなりむつかしいが、借りたら必ず返すように。余り守れないようなら、貸し出し禁止ということも考えている」（西田先生談）とのことである。

以上のような問題点もあるが、先日の入学式の際父兄にはかなり好評だったし、また先生方・生徒の間にも明るい、格段に設備がいいなどと評判はよい。校長先生は「設備はよくなった。しかし、設備がよくなったのだから、これに見合うだけの土佐校生としてのマナーを備えてもらいたい」

校舎も新しくなったことだし、


すばらしい体育館放送設備

暇な人の為に

○…奉仕すなわち〝献身的に〟と国家・社会につくすこと（広辞苑）〟である。最近、新聞の三面記事の代表格になってしまったこの活動…商業紙がわざわざ〝紙上に取り上げているということは、余程めずらしくなっているのだろう。

○…その状況を反映してか、本校のインターアクトクラブは部員不足に悩んでいる。

「存続のメドはついたけれど、先細りのクラブだから…」と、会長だった西村君は言う。現在、入部者を個別に、また大々的に募集はしているが、あまり期待はできない。土佐校生にはそんな〝気骨ある男〟はいなくなったのだろうか。

○…インターアクトと言えば去年だったか、文芸部と各付の良・否について大論争を展開してもしインターアクトの意見に共鳴するならば是非とも、自身から先頭に立って奉仕活動を行って欲しい。

○…あまり主張ばかりしていても嫌われるから…。ここでインターアクトはどんな活動をするのか触れてみる。一般に奉仕活動と呼ばれる代物、つまりは公園・道路の掃除、チャリティーショーの開催、他のインターアクトクラブ組織との交流などである。ただ単に球を ひっぱたけばいいとか、薬器を持ってつったっていればよいというのではない。魅のある自分個人の考えをもフルに生かせ得る、無形のクラブといってよい。

○…しかし、それだけに入部者が少なかったのである。頭を使うことを嫌う我々に独創性を求めるのは少々酷かも知れない。が、この問題に限って現状のままで終局をむかえさせるわけにはいかない。土佐校の理性の問題であるからだ。しかも奉仕なんでものは四無主義だのブルジョア的だのという以前の問題であり、反射的に行なわれてしかるべきである。

○…インパーアクトの進路と〝土佐〟の進路は同一であると考えられる。I―といっても過言ではあるまい。全人教育の観点からも、公共心を大切にするという昨年からの一大目標を履行する意味でも、ここに断言する。インターアクトをつぶしてはならない。生徒諸君！我々がやらなければ誰もやらないんだ

（H・K）

ひとこと

はりきる執行部

執行部は先に述べたように、張り切って生徒意見の調整を行なっている。現在記念祭の名前を付ける作業にとりかかっている。

執行部案は次の通り

十一月十八日　記念式典
同　十九日　代休
同　二十日　〃
同　二十一日　文化祭準備
同　二十二日　文化祭
同　二十三日　文化祭
（運動会は例年通り十月）

この案で、十九日、二十日の両日は代休という建前であるが、実際、フォーク・ダンス、討論会、評議会などを開くことを考えており、六月間連続の日程である。

しかし、執行部案は既制のイメージに束縛されている感があり、学校側の望んでいる〝新しいもの〟が少ないのが難である。

また、一方文化部連合会は、〝記念祭には、文化部全体として参加する必要があるから、展示その他について、こちらから指示することもありうる。展示に一貫性を持たせ、五〇周年記念祭にふさわしいようにしたいとの意見〟を尊重し、今後の活動を続ける予定である。

記念祭は一貫性を持たせそれを柱にして、企画、展示をする必要がある。今まで文化部は〝名前〟にこり固まって、大した発表ができなかったが、今回はそのワクを撤廃する意気込みが必要である。

この機会に生活態度も改めてほしいというのが、学校の願いのようだ。

分科会の復活を望む

主張

新学期も始まってはや一ケ月になる。そろそろ新顔の名前も覚えた頃であろう。少しゆとりが出て来たところで考えて欲しい。

私達は毎日決められたカリキュラムに則った授業を、学校側が割りふりした教師に師事して受けている。しかし、これで満足なのか学園の主役はあくまで〝生徒〟である。教師ではないのである。それなのに、生徒にとって一番大切な授業を何故に、また端役の先生方だけの決定にまかしているのかそしてどうしてそれに疑問をも感じないでいるのか。

日常交される言葉の中には必ずなにがしかの形で〝授業の批判〟が聞かれる。「トラの巻のまる写しの授業だ」とか「質問してもよう答えんに手に合うか」とか「あいつはまっこと強いきにゃあ」とかいったものだが、こんなことを陰でいえるのにどうして表ではっきり言えないのか。へたな教師に与えることを実現して欲しい。学校側が一応割りふりしたのを生徒に承認させる形や、アンケート等による形など結果を絶対的なものとしなければ充分利用価値はあるはずだ。当然干ばしにされる先生も出るだろう。しかしそれは、我身のなせるわざ、しかたあるまい。生徒も大学受験という関所があるから、まじめに選ぶだろう。生徒に媚びなければ選ばれなくなるなどという心配はないと思われるが、こうすることは、おのずから先生方の質を向上させることにつながり非常に有益であろう。だいたい県内某校の先生が「土佐の生徒をうちにくれたら百名くらいは東大に通してみせる」と言ったという笑い話があるくらいである。土佐の最近の先生方の質の下落は自他ともに認めるところである。本校へ赴任するのに試験もなければ面接すらないこともあるというではないか。これ程簡単な職場が他にあるだろうか。「失業したら土佐へ帰って来て教師でもやるか」といった生徒もいる。高い授業料を支払っているんだ。良い師に学びたいものである。

もう一つ、学校行事を行うときにも生徒の意見を大幅に聞いて欲しい。これもアンケート等で調べて集計すればごく簡単にすむ。やはり絶対的なものとしなければかなり利用できよう。

これらを行なうには、先生方でそれぞれの問題について話し合う〝小委員会〟のようなものが必要である。それが三年前に作られた分科会である。しかしその分科会は中間発表をしたきりでその後たち消えの状態である。先生方もいそがしいであろう。しかし、土佐校の未来像の輪廓を知るために各クラスより候補者を一名以上指名したが出てきたのはわずか三クラス三名であった。

期末試験発表の前日選挙で会長候補が欠席という最悪の事態のまま強行された。また出て来た副会長候補も〝むりやり出された〟〝やる気はない〟〝選ぶのはかってだがやるかどうかはわからない〟と言ったのにもかかわらず全員信任された。

このことは何をしめしているかひとえに生徒諸君の生徒自治への関心のなさである。当時の高三は「高三になってから選挙をやられてはたいへんだ」と思い、高一もめんどくさいことはさっさとすましてしまえと考えたからであるつまり本校生は生徒自治に関しては〝四無主義〟の者が断然多いということがいえる。

〝最近の執行部は魅力がない〟だとか〝代償を与えないとやる者がいないだろう〟ということがよく聞かれる。執行部に魅力がないということはどういうことを示すのか。我々生徒自身に魅力がないということである。執行部は我々生徒の代表執行機関である。ある意味では象徴でもある。我々生徒が盛り上げない執行部に魅力があるはずはないではないか。生徒が無関心だと執行部もたいした仕事はできないのである。

たとえばパーラー解禁の問題がある。昨年度後期執行部がパーラーを解禁しようと運動をして、職員会議にはかってもらったがまだ茶店の区別の問題もあるが、先生方の中に「生徒はほんとうにパーラー解禁を望んでいるだろうか」という声が聞かれるためである。たしかに生徒側にもたいして望んでいるふうが感じられない。（解禁になってもならなくても行く者が多いためもあろうが）「解禁になるならないよりなるほうがましだ。」とくらいにしか考えてないからだこれでは執行部がどんなにがんばっても解禁になるわけない。ほんとうに解禁してほしいなら、ほんとうに健全な楽場というのなら態度でしめしてみるべきだ。

このことはパーラー解禁の問題に限ったことではない。どんな問題にしても一般生徒の協力、支援なくしてりっぱに成しとげれることは不可能である。つまり執行部の仕事に協力せず関心を持たないということは、生徒自治、参加できるという〝権利〟を自ら放棄していることになるのである。

また、運動会にしろクラスマッチにしろたいへん結構な行事を中心になって行なってくれているのは執行部であることを忘れているわけでもあるまい。

生徒自治への関心

本年度前期執行部の正副会長の選挙は全くもってひどいものであった。

三学期にはいると前期執行部は正副会長の募集を開始したが、前回同様一名の立候補者が出なかった。そこで来年度まで持ち越すことを避けたいと考えた前執行部は〝いつはまっこと強いきにゃあ〟とかいったものだが、こんなことを陰でいえるのにどうして表ではっきり言えないのか。へたな教師に逆に使用面積は狭くなったという女子が多い。

今後の問題としてはまず設備に関して生徒からでてきた不満に対してどう答えるか。そのほか、体育館での上履・体育用具の管理などがある。最初の問題については「なるべく生徒の希望どうりにするつもりだ」とのことである。次に、第二・三の問題に関しては、「まず上履については、体育館はビニール塗装をしたため、みんなに備えてもらったが、完全に徹底するよう努力するつもりだ。次に体育用具の管理については、倉庫が上下二ケ所に分かれたため、かなりむつかしいが、借りたら必ず返すように。余り守れないようなら、貸し出し禁止ということも考えている」（西田先生談）とのことである。

以上のような問題点もあるが、先日の入学式の際父兄にはかなり好評だったし、また先生方・生徒の間にも明るい、格段に設備がいいなどと評判はよい。校長先生は「設備はよくなった。しかし、設備がよくなったのだから、これに見合うだけの土佐校生としてのマナーを備えてもらいたい」

校舎も新しくなったことだし、

50周年記念祭
予算に1千万円計上

今年度、土佐校創立五〇周年記念祭が開かれる。学校側は四月下旬に〝記念祭実施〟の方向を打ち出し、文化部、執行部などにその旨を打信。記念式典と一緒に行なわれる予定の学園祭に参加の意向があるかなどといいただした。

一方、執行部はアンケート等により練った草案を生徒議会で検討し、日程など具体的な案の作成に入っている。文化部は、連合会の発足が遅れ、手まどっているが、基本的には参加の意向を固めている。

また、学校側の意気込みもすさまじく、経費に一千万円を計上（決定されてはいない）〝土佐校五〇年史〟、〝歴史写真集〟、〝同窓会名簿〟などの作成を検討するよう、数名の先生方に委任している。

校長先生の話によると一写真集などを作ると三百万円位は必要だから一千万円も決して多くはない云々、この金は建築資金の一部としてあったものであり、もちろんレセプションなどの費用は含まれていないことを強調され、同時に学園祭、音楽会、運動会などを開催する用意のあることをほのめかした。

具体的な式典内容はまだ決定されていないが、校長個人としての意見では、〝めでたい、めでたいと騒ぐのではなく、何か精神的にも物質的にも残るものとしたい〟ということで〝公開してもはずかしくない内容のものにして欲しい。また、今までの文化祭的なものは頭から無視して、新しい土佐らしいものにしたい〟との意向。

これらのことについて、校長はまた、外部の人を招待しての式典文化講演なども考えており、最善の場合、記念式典・文化祭・音楽会・運動会・文化講演等がかなり長期の日程をとって行なわれることになるが、それは非常に難しい。

校長インタビュー
第四期工事
具体的なことは未定

待望久しかった体育館と食堂とプールを建設する予定はありますか。

―プールは必ず建設するが、その場所やいつから工事を始めるなどということは、まだ決定していない。だが資金面については学校側予算の中に含まれているので、その方の問題はない」

―授業料は、今年は値上がりしませんでしたが、今後はどうなると考えていらっしゃいますか。

「現在のところ、授業料の値上げは予定されていないが、物価上昇のおり、多分値上げされるであろう」

―創立五十周年記念式典および新校舎落成式はどのように計画されていますか。

「今は、どのようなことをするのか全く決定していない」

―食堂の管理は、すべて業者に委託しているそうですが、それについてどうお考えですか。学校側は業者に対して場所代を取っていますか。取っているなら、いくらぐらい取っていますか。

「業者にすべてを任せているがその方が学校としても業者としてもよいのではないかと思っている場所代は、一年間百万円の割合でもらっている」

記録しておきましょう。
思い出の宝庫、学園生活
その輝ける一瞬を

たのしさを売る
キタムラの
キムちゃん
キタムラカメラ
サービスチェーン店
中村店　升形店　本店　追手筋店　さんばし店　安芸店
堺町2―26　TEL㉒―1641（イロヨイ）（代）

入文学服
本町中ノ橋電停前北側　TEL ㊸1101代表

おしゃべり

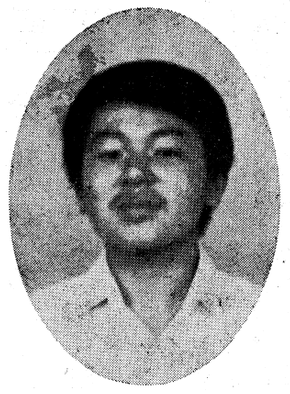
ある日、我が部の高一の悪たれ連中と、下校の時間までダベった。最初は低俗な話から始まったが、どこでどうころんだか、いつのまにか、教師のこと・人生のこと・政治的なことと話は進んでいった。いろいろと語って久しぶり充実した時を過ごしたような気がする。これが所謂〝ボントノヒトトキ〟なんていうやつかな。

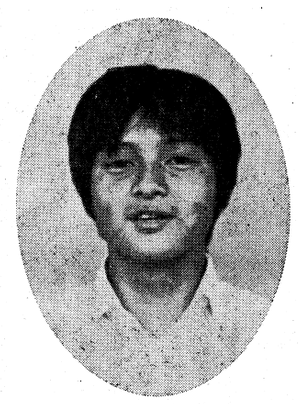
▼最近ほんとに〝対話〟というものが減ってきたような気がする。（こう考えるのは俺だけじゃないかな）親子の対話にしろ、師弟の対話にしろ。これらより多いが友達どうしの対話だって、本当に腹を割って話したことなんか少なくなったと違うかな。これが世間でよく言われている〝親子の断絶〟〝師弟の断絶〟というやつにつながるので あろう▼いつものように〝教師〟のことも話題になった。本当によい教師というのがあまりいないように感じた。たしかに立派な数学や英語など担当科目の先生はいるかもしれない。しかし、本当に我々の人生の上において、立派な師は何人いるだろうか、前に書いた立派な先生には進学相談や勉強の相談はできる。しかし人生の話だとかもろもろの悩み事の相談に乗ってくれるかははなはだ疑問である。「何をいうか〃相談にきたらどんなことでもいつでものってやる。」という先生方もかなりおられるかもしれない。しかしそれができないのはふだんからあまり親しみを感じられないせいもあろう▼一クラス六十名ということにも大きく問題がある。とても一人の先生では六十人もの生徒を相手にしきれない。それに公立に比べて先生の数もぐっと少ない。クラスの定員が少なく、先生の数は多いのが一番よいのはあたり前だが、本校の私立の立場上、そうすれば授業料の方へと響いてくる。これは仕方のないことかもしれない。だったらどうすればよいか、先生方の質をよくすることである。量より質だ。聞くところによると、本校への就職は無試験だそうである。また今年の場合面接もなかったと聞く。これではとても質の向上は望まれない。最近の先生方の中には、やる気の感じられない方もふえたようだ。新校舎ができて次は中身つまり、教育の向上だというが、まずそのへんからやらなければならないのではないか▼四十五年度に作られた分科会は立ち消えになったと聞く。土佐教育のあり方を根本的に再検討する目的で作られた分科会がなくなった後どのように教育してゆくというのだろうか。副業に精を出すのもいい。しかしまずは土佐の教師として分科会を組織した頃の気持を保って欲しい。また、二階に設けられたカウンセラー室も使用されてないようだが、何のための新校舎か考えてほしい。先生方の中には自分のクラスの者の名前すら覚えてない方や担当以外のクラスでは番号で呼ぶ方も多い。これは対話以前の問題である▼この前のダベリングで感じたことは、対話の必要性だ。どんな悩みごとでも話せば楽になるし、楽しくなる。先生方もオープンにしていただき、我々もどんどん対話というものの機会を持ちたいものである。（M・Y）

記念祭にかける 熱行部

期待される田中君の手腕

岩崎政雄 副会長


田中　潔 会長


吉村文比古 副会長

去る四月十二日に田中潔君（２Ｋ）を会長とする四十八年度前期熱行部が成立した。同熱行部、〝生徒自治に対する関心を高めること〟と〝五〇周年記念祭〟を二本の柱に活動していく予定である。新熱行部のメンバーは次の通りである。

会長　田中　潔・２Ｋ
副会長　吉村文比古・２Ｎ
　岩崎政雄・２Ｓ
各部担当　岡西裕文・２Ｔ
ＨＲ担当　松崎圭祐・２Ｋ
広報担当　橋村正悟郎・２Ｏ
校内美化　甲原千代子・２Ｋ
書記　北岡典子・１Ｏ
　寺田幸・１Ｏ
会計　市川美知子・２Ｎ

今回の会長選挙も前回と同様、全くひどいものであった。立候補締め切り日までに候補者が出ず、当時会長の西森君は、高一各クラスから正副会長候補を最低一名選出するよう指示。ホームルーム等にはかった結果、候補者を出したのはわずか３クラスにとどまり、信期投票の形で選挙が行なわれた投票日はそのせいで大幅に遅れ、期末試験発表の期日となり盛り上がりに欠け、また会長候補病気欠席のまま強行された。そのうえ、

演壇に立った副会長候補２名は、「やる気はない」「当選しても何もできない」と断言するというありさま。しかし、それでも三名とも信任されてしまった。当然三名とも不信任されるべきであった会長の田中君も「不本意にも当選してしまった」と言っている位である。

会長田中君談・「不本意にも当選してしまったが、会長になったからにはやる。まずクラスマッチパーラー解禁の実現、五〇周年記念祭の下ごしらえを当面の目標としたい。今の土佐高生は自己中心的で生徒自治に関心がなさすぎるだから生徒との交流を深め、関心を高めていくために、スポーツ祭美術展を行ったり、機関紙を多発していきたい。とにかく手当り次第にやります」

また他のメンバーも、「あたえられたことはやる」（吉村）、「会長の意向に従って協力する」（岩崎）、「学校生活に潤いを持たすべくガンバル」（松崎）、「全クラブの為につくす」（岡西）、「手当り次第の仕事をする」（橋村）などからやる気を見せ、協力体制はできあがっている。しかし、生徒の無関心に対処する特効薬は見つかっておらず、今後が注目される。が、前途多難が予想されることは隠せない。

なお、四月二十一日には新聞部と座談会を行い、当面の問題点どについて意見を交換、第一回とした。

延べ数大幅に増
合格率は例年なみ

この程、指導部で四十八年度入試統計がまとめられた。

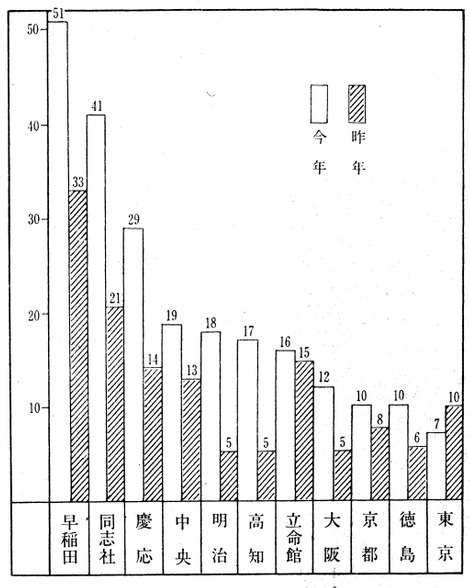
本年度の延べ合格者数は五百九十五名（浪人含む）と、不振だった昨年度を二百四十三名、一昨年度を百六十三名上回り史上最高の数字を示している。現役合格率は五十六パーセントと平年並み。その内訳は国立大百五十八名、公立大二十九名、私立大三百九十四名。

太学別に見てみると、国立でトップは高知大の十七名。次いで大阪十二名、京都十名とそれぞれ昨年より七名、二名増加。私立でも早稲田が十八名アップで五十一名慶応、同志社、中央と続いている学部別でも、たいした変化は見られず、工学部、商経学部、法学部、医学部などが上位を占めている。

今年度の成績について、生徒の態度のまじめさが好結果を生んだという見方もある。昨年度に比べ服装もきちんとしていたし、授業に意欲的な面が見られた。問題のない学年であったようだ。一方、以前が悪過ぎたと言われる先生もいる。前高三担任のある先生は、「良かったと言っても、五六パーセント位の合格率で本当に良かったかどうか疑問である。昨年度、一昨年度の浪人が多数受けていることだし。私はむしろ、今度の試験で、本校生の大学観の甘さを思い知らされたような気がする。土佐は、全国的に見て、決してレベルが高いとは言えないと思う」とおっしゃった。

山岸先生談　今年の成績は数年来の好成績でまことに喜ばしい。合格者の総数にしても、国公立の合格者数にしてもまことに見事な数字である、ただ東大で不振だったのは残念だ。来年こそはきっとこの不成績を挽回してみせたいものだ。諸君の一層の奮起を望んでやまない。

要するに入試は短期間で成功するものではない。不断の努力と猛烈な学習と相まってのみ成就するものである。特に上級生の諸君は絶えず学習に励んでいただきたい。



ギター部
新入生のための
発表会開く

新入生に本校最初の土曜日のひとときを楽しく過してもらい、またギターというものの良さを知ってもらいたいという目的で、四月十四日406合併教室においてギター部主催の〝新入生のためのギター演奏会〟が行なわれた。

曲目は、映画音楽からテレビ番組の主題歌まで、それにギター部の十八番である〝二つのギター〟〝マラゲーニア〟などと豊富であった。しかし、準備の遅れや、宣伝不足などの不手際が生じたために、集まった新入生はわずか十数名と低調であった。

同クラブでは、これからも毎年新入生のために行いたいとのことだが、このように豊富な内容であっても準備が遅れ、完全な演奏会が出来ないとは、あまりにもその発表の場を軽視しすぎているのではないだろうか。

これからは対外発表の場を多く持つ文化部として、技術と諸準備の両面ともに完全な演奏会を目さしてもらいたいものである。

生徒部長〝誠意〟を強調される

今年度より向う二年間の校務分掌がこのほど決まり、生徒部長以外の役員は再選された。

教　頭…松浦　勲先生
中学主事…久保田伸雄先生
指導部長…山岸　泰先生
生徒部長…山本直四郎先生
整理部長…岡部淳之助先生
厚生部長…元吉　和雄先生
教務部長…竹村　一水先生
図書部長…小松　博先生
体育部長…西田　元彦先生
特活部長…三枝　重喜先生

生徒部長の山本直四郎先生のお話によると、「すこし不安ですが就任したからには、誠意を持って生活指導にあたりたいと思っています。土佐校の生徒は、素直でよくやってくれると信じています。まず志す、次に実行ということ、これを忘れないでほしいですね。主任の先生方は、君達のことを思っていろいろと教えて下さる。私達は主任の先生方のお手伝いをするのだと思っています」

指導方針については、「担負はありませんが、君達を信じて、生徒部の先生方の御協力をあおぎたいです」とおっしゃられた。

今度新しく作った身上調査については、「今まで、各担任の先生方のところにあったのを生徒部にも備えつけたかったからです。身上調査は、三年間使うつもりで、その間の出来事を記入します。私の授業は、高校だけなので、ひまなときなどこれを見て、中学生の顔も覚えるようにします。まあ、医者のカルテの様なものだと考えてもらって結構です」

今までの野球部長に加え、生徒部長も兼ねられ、かなり御多忙になられると思われるが、がんばっていただきたいものだ。

中学自転車置場
解決の見通しつく
新体育館の南と東側に

待望の新体育館も無事完成したる。

そのため、生徒側では至急新しい自転車置場を作ってほしいとかねがね希望していた。

今度増築される中学自転車置場は、新体育館の南側と東側に設けられる予定である。しかし、そこに園芸部が温室を作りたいとの要望もあって、すぐ作るとまではいかない状態である。

担当の高崎先生はこれについて「自転車置場には一応中学全部の自転車が置けるが、置けない自転車は、高校の方を使ってもらうことになるだろう。屋根は東側には着けて南側には着けない予定だったが南側にも着けることになるかもしれない。また職員の自動車が路上に駐車出来なくなるため、新体育館の東側に駐車場を設けなければならないだろう。自転車置場は今、まだ埋め立て中で、地ならしをしてから臨時に使えるようにする。しかし増築をいつ始めるかはまだわかっていない」と語った。

梅雨期も近づいているため、長い間待たされた生徒側は早急な設置を望んでいる。

先生出番です

高崎元尚先生

そろそろ最後の「出番」であるから本当のことを書きたいと思っていたある日、かつての教え子で今は同僚であるM君が言った。

「先生近頃元気がないので気になっています。どこかお悪いのですか」

ありがとうM君。私はどこも悪くない。私は今すこく張り切っている。しかし、君にそんなふうに見えるとしたら、私が張り切っているそのことが、つまり私の病気という訳だ。そうだ今日は私の病気について書こう。その結果いくらかすっきり出来たらいい。

私がとりわけ意気消沈していたのは、多分親友のTが死んだという知らせを受けた直後であったと思う。戦争で死んだものほかはおおむね平穏な日々を重ねて来た私達に、再び死の季節がやってきたのである。

死神は最初、自称無頼派でそのくせ無類の好人物で、こよなきクラスのまとめ役であったTの所へ来た。Tには申し訳ないけれども、神様はやはりお見通しだった。なぜならTこそは、いかにも彼らしいくったくのないやり方で、私達の一人一人に死神をイントロデュース出来るただ一人の人物であったから。通夜の席には在京のクラスメート全員が久々に集い、大いに飲んだという報せが届いた。

私は行かなかった。行くべきであったのに。もはや冗談を返してこないTの死顔に対面してどのように振舞えばよいのかわからなかったし、私が死んだときそんなふうに見送って欲しくないと思ったりしていた。時間は容赦なく過ぎ去りすべては後のまつりだ。本当に申し訳ないことをした。私はどうしていつもこうなのか。なぜ常識に従って卒直に自分の気持ちを表わすことが出来なかったかと悔やまれる。

私は十六回の卒業でいつのまにか五十歳になっていた。幸い母校に職を得て居住も安定し、幾度か日本の現代美術を代表することもできた。しかしあれ等は夢であったのだろうか。私は間違っていたのだろうか。いま振り返ってみて日本の現代美術は少しも日本の風土に定着したふうには見えないし、そしてこの私も。日本は今世界で一番絵の売れる国だそうだ。相変わらず若者の前衛は盛んだが、年寄りの前衛は狂気のさただ。だから私がやらなければならない。けれども一方では、日本の現代美術の運動そのものが、圧倒的な商業主義の前に閉塞させられてしまった歴史を、長くこの道にたずさわってきたが故に知ってもいる。

明日への希望がなく、差し迫った肉体の頽廃がこれに重なるとき、人は如何にして生をまっとうすることができるであろうか。この時、三島由紀夫は自決し（あれは相当なショックだった）湯川秀樹先生は老いて自然に帰ることのさりげなさを説く哲人とならられた。立派である。

一九七〇年、万国博に日本の現代美術の衰退を予見した私はあえて「現代美術の実験」（笛画廊）を毎月開くことを決めた。私は残された命を十倍にして生きたいと思ったし、そうしなければ宿題が終わらないのだと思った。さて始めてみると、これは物心共に相当にしんどい仕事であった。身の程をわきまえぬ計画はやがてむさくるしい結末を迎えることになるでしょう。

よくわかっておりますが止めることができないのです。敗戦と解放（あれは本物ではなかった）という未曽有の機会に、上野で青春を過した者の見果てぬ夢とお笑い下さい。そして今しばらくお見逃しの程をお願い申し上げます。

新任紹介

安岡正文先生

高三の政経、高一の世界史、中二の地理を現在担当されている安岡先生は東北大を経て、東工業など公立で教鞭をとられ、退職後も教育への情熱がすてきれず本校へ就任された。

温和で頼れる先生という感じだった。

本校の生徒の御感想は？
「公立と比べて活動的だし、勉強熱心だね。」

御趣味は？
「庭いじり盆栽までいかないが暇があればいじっている。それと軽音楽、サイモンとガーファンクルが特にいい。オカシイカナ？」と六十才とは思えない答がはねかえってきた。

お好きなスポーツは？
「今はしていないが学生時代は陸上をやってたな。」

教育方針は？

近森哲雄先生

回りの先生方が異口同音に無口ですが熱心でいい先生ですと語られた近森先生。名古屋大を経て後輩の手助けがしたいと本校へ就任。

高二の化学と中三の理科Ⅰ分野を担当される二十三才の先生である。

先生の学生時と今とで土佐の生徒はどのように変わったと思われますか？

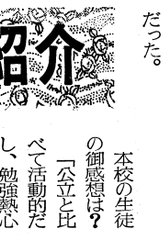
「個性的になっています。つまり自己を大切にするようになっていると思います。いい事です。」

余暇の利用法は？

「大学の友人と酒を飲みにいったり、雑談したり……。」

これからどんな教育をしていかれるんですか？

「りっぱな人間をつくる手助けをしたいと思ってます。僕は折り目切り目をきちんとつけるのが好きですから多少はおこるや。もう一度会いたいんやけど。」



田中研治先生

関西学院大修士課程を御卒業後本校へ就任された。

ユニークな関西弁でおなじみの英語担当の二十四才の先生である。

高知でのおすまいは？

「アパートで自炊の一人暮しや」

寂しい事や不便なことはありませんか？

「寂しいことはないね。帰って勉強したりすると気がまぎれるし。そうじ、洗濯、食事のしたくなんかは自分でやってる。洗濯機なんかもあるしけっこうできるな」

先生のG・Fはコンパニオンとの噂が飛んでますがそれについては？

「そのとおりや。万博でしり会ったカナダの人で今文通してる。結婚するならこの人が有望なのが好きですから多少はおこるや。もう一度会いたいんやけど。」

竹島料子先生

本校を卒業後高知女子大を経て母校へ就任された。担当は中一の現国と中三の漢文、授業はなかなかきびしいという二十二才の先生である。

御趣味は？
「中一の時からやっている生け花、あなた方もいかが？」

これからどんなことをやっていかれるんですか？
「さあちょっとわからないけど、年令も近いことだしいろんな面で協力していきたいわ。おほほなくてもね。」

尊敬される人物は？
「ナイチンゲールと野口英世」

結婚の時期は？
「永久にこないでしょうね」

終始笑いながら答えられた先生のお人柄が忍ばれるようだった。

編集後記

竹刀を振り回して、声をからしながら集めた記事。「やらなあ総括にかけて殺すゾ」という文句の聞かれない日はない。

何故、我々はこんなにしてまで新聞を出さねばならないのだろう。山羊か、はたまたキューピーのような顔を見て吐き気をもよおし神経痛の薬を服用しながらガンバッテくれたカニ平兄イも生い先短い運命、残りの向陽組幹部も相次ぐ出入りで深手を負い、もう新聞部もダメだろうという噂も真実味を帯びてきた今日この頃でございます。

一杯のコーヒーでも冬山の雪洞の中で飲む温かい一杯は、これで命びろいしたと思わせるようなさに千金のうまさである。

映画「どぶ川学級」を見たときの感動も千度そのようなものであった。「どぶ川」は今もなお私の中にあたたかいものを宿している教育の砂漠の中で、ひからびそうになっている自分に緑をよみがえらせてくれるエネルギーを与えてくれるのである。

時代は確かに激動の時代である。しかし、自分をとりまいている教育の状況に目をやるともうどこから手をつけていいかわからなくなるのである。問題意識さえなくなって死をあざけているような生ぐさな生活の連続がはたして教育の名にあたいするのか。塾の異様な繁栄ぶりとか、非行の広がりとか生徒の無気力とか、はては中学生の自殺等々、教育の荒廃の現状に無関係面をして労働することが次の腐敗を生みだしていないのか。

そもそも教育とは何かについて本校では真剣な議論がなされたことがない。そんな状況に対する痛烈な批判が芸術的な高まりの中で教えてくれた。この一年間大学入れた〉

この映画は「教育とは何であるか」「真の教育をとりもどしていく力はどこにあるか」をあざやかに描いている。私たちは教育にあたたかい人間性をとりもどしたいのである。フランスの詩人アラゴンのいうように、〝教えることは共に希望を語りあう実践の中に教育の本当の喜びがあることをこの映画は私に教えてくれた。

映画「どぶ川学級」は父母にも生徒にも教師にもみていただきたい。教育を考えるきっかけになると思うからである。

（西森茂夫）

シネ鑑賞
〝どぶ川学級〟
考えさせられる教育

戦前の教育を思わず学校をつくっているというふうにみるべきだし教育に人間性をとりもどせという映画の主張は私たちにも共通しているのである。この映画をみたらまず〝ぼくら〟が得をしないといけないこと。一人が頭にきていることはみんなが頭にきていることだから組織してたちあがれば変えていけること。そして何よりも一人一人の〝ぼく〟は〝ぼくら〟の中でこそ無限にのびていくということをこの映画は実際にみせてくれた。

〈どぶ川学級〉―それは〝ぼく〟でなく〝ぼくら〟がなにものかを烈な批判が芸術的な高まりの中で教えてくれた。この一年間大学入れた〉

この映画は「教育とは何であるか」「真の教育をとりもどしていく力はどこにあるか」をあざやかに描いている。私たちは教育にあたたかい人間性をとりもどしたいのである。フランスの詩人アラゴンのいうように、〝教えることは共に希望を語りあう実践の中に教育の本当の喜びがあることをこの映画は私に教えてくれた。

映画「どぶ川学級」は父母にも生徒にも教師にもみていただきたい。教育を考えるきっかけになると思うからである。

（西森茂夫）

川村時計店
高知市帯屋町２―１―28　１Ｆ　ジュエリーフロア　ＴＥＬ　22―0123
3F ミュージックフロアー
2F メンズフロアー
1F ジュエリーフロアー
ESCALATOR
川村時計店
レコードの川村
高知市帯屋町２―１―28　３Ｆ　ミュージックフロア　ＴＥＬ　75―5271
学生服専門店
1F……学生服
2F……カジュアル
児島屋
高知・帯屋町二丁目
ＴＥＬ㉒五五一一
Young の広場
オーディオクラブ会員募集中

〈コンポーネント試聴室〉

〈コンサートホール〉
コンサートホール利用をご希望の方は、シキデンオーディオクラブ事務所
TEL 83―5101 迄
高知駅 東 600m 銀色の建物
シキデンステレオセンター
高知市北本町３丁目（テレビ高知前）TEL 83―5101
寿し栄
本店　高知市南はりまや町１丁目２―20　㉓0101
別館　高知市堺町11―１　㉓5103
支店　高知市帯屋町２丁目４―５　㉒5373
支店　高知市本町４丁目１―49　㉓5102
支店　高知新聞放送会館地下　レストラン寿し栄　㉓5101
支店　高知市帯屋町１丁目１―11　リラ地下食通街　㉓5100
支店　高知市南はりまや町土電会館内　パノラマ大食堂　㉜0111
支店　高知市重倉正蓮寺ゴルフ場内食堂　㊻1540